様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	呉工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科	夜・通信			18	18	7	
	電気情報工学科	夜・通信			22	22	7	
	環境都市工学科	夜・通信			12	12	7	
	建築学科	夜・通信			12	12	7	
	プロジェクトデザイン工学専攻	夜・通信		2	7	9	7	

（備考）
電気情報工学科は,情報通信コース,エネルギー制御コースの２コース制であるが,どちらのコースに所属しても，全科目を受講可能である。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

高専ＷＥＢシラバス公開ページにより公表している
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=34
各学科の「本年度の開講科目一覧」ボタンをクリックして表示されるページの学科到達目標欄最下部に【実務経験のある教員による授業科目一覧】として公表している。

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	呉工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工学府長・研究院長	2024年4月1日～2026年3月31日	国際交流･海外展開情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～2026年3月31日	男女共同参画
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	呉工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） １２月に次年度の教科担当教員が確定した後で，教務主事から非常勤教員を含む全教員あてにメールおよび教員会でシラバス作成依頼を行う。シラバスの作成は国立高専機構Ｗｅｂシラバスシステムを使用し，シラバスの内容は，到達目標，ルーブリック，学科の到達目標項目との関係，教育方法等（概要，授業の進め方と授業内容・方法，注意点），各週の授業計画，成績評価の評価割合である。 １月中旬～下旬にかけて各学科教育主任によるシラバス内容チェックを経て，必要であれば各科目の担当教員にシラバスの修正依頼をする。 １月，２月の教務委員会で進捗状況を確認し，３月の教務委員会でシラバスを確定する。 シラバスの公表時期は，４月１日としている。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=34
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 各科目のシラバスに沿った成績評価がされていることをチェックするため，成績評価資料のエビデンス保存マニュアルにより，全学的にすべての科目の成績評価資料を保存，学生課教務係で保管している。また，適切に学修成果が評価されているかどうか科目担当教員以外の教員がチェックしている。 本科各学科の卒業研究も発表要旨の書式を統一している。 大学の学部４年生の卒業研究に相当する，専攻科プロジェクトデザイン工学専攻特別研究では，特別研究指導資格のある他の教員が論文の評価を行うなど，客観的な評価・基準に基づき判定する体制を整備している。	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 客観的に成績評価指標として，クラス（学科・学年）内の当該学期の成績平均点を用いている。 最終的な成績評価は，優・良・可・不可の評価で記載しているが，一部の特殊な科目を除き，１００点満点の数値で各科目評価の成績入力を行っている。 本科では中間試験を含む年４回の定期試験ごとに成績一覧表を作成し，全教員に配付し，教員会で成績の分布状況を把握している。この成績一覧表では，学生全員の評価点，総得点，平均点，クラス内席次と，各科目の平均点を記載している。 成績一覧表は，いずれも満点は１００点で，学生全員の総合評価点，各科目毎の平均点，学生個人毎の平均点及び席次を記載している。 学生にも個人成績表を年４回配付して，クラス担任による学習指導が行われる。 学業成績評価基準については，本校ホームページにて公表している。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.kure-nct.ac.jp/department/seiseki.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 教育理念，教育目的をふまえて，本科および専攻科で４つの学習・教育目標を設定し，それに対応してディプロマ・ポリシーを設定し，呉高専ホームページに公表している。 本科の具体的な進級・卒業要件は，毎年全学生に配付する「キャンパスガイド」に記載し，毎年４月に実施するガイダンスで学生に周知している。 専攻科の具体的な履修方法や修了要件は，専攻科入学時に配付する「STUDIES & CAMPUS LIFE」に記載し，毎年４月に実施するガイダンスで学生に周知している。 なお，「キャンパスガイド」および「STUDIES & CAMPUS LIFE」は，本校ホームページでも全文 PDF 公開している。 また，本科前期末，学年末の成績通知表を，学生全員の保護者宛に送付する際にも，進級・卒業要件を記載している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	教育理念，教育目標，学習・教育目標，３つのポリシー https://www.kure-nct.ac.jp/profile/mokuhyou.html キャンパスガイド https://www.kure-nct.ac.jp/user/pdf/campusguide.pdf STUDIES & CAMPUS LIFE https://www.kure-nct.ac.jp/user/pdf/s_campuslife.pdf

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	呉工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
財産目録	
事業報告書	https://kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyouhoukoku.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画　対象年度：令和６年度）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf
中長期計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画　対象年度：令和６年度から令和10年度）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/pdf/10tenken_hyouka.pdf

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　（機械工学科，電気情報工学科，環境都市工学科，建築学科）
教育研究上の目的（公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/mokuhyou.html）
（概要） ○教育目的 　豊かな教養と国際性を持ち，それぞれの専門分野において実験・実習・演習を重視した教育により工学に関する知識や技術を身に付け，各分野の課題に対応できる人材を育成する。 ○各学科の教育目的 ・機械工学科　　：ものづくりを通して社会の発展に貢献できる機械技術を有する人材の育成 ・電気情報工学科：絶え間なく進化する科学技術に対応できる電気情報技術を有する人材の育成 ・環境都市工学科：豊かで快適な自然環境や社会基盤を整備する技術を有する人材の育成 ・建築学科　　：安全で快適な生活空間を創造する技術を有する人材の育成 ○学習・教育目標 （HA）　豊かな教養と国際性の修得 （HB）　工学に関連する基礎知識の修得 （HC）　専門分野の課題に対応できる能力の修得 （HD）　社会のニーズを捉え、創造的に課題に対応できる能力の修得
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/mokuhyou.html　）
（概要） ○ディプロマポリシー 準学士課程卒業認定の基本方針 学習・教育目標に沿って設けた授業科目を履修し，以下の項目にあげる知識・能力を身に付け，１６７単位以上（一般科目７５単位以上，専門科目８２単位以上）を修得した学生に準学士（工学）を授与する。 準学士課程で養成する人材像 (HA)　技術者として必要な教養とコミュニケーション力を身に付けている 　・人文・社会科学系科目を修得する (HB)　専門分野に活用できる工学に関する基礎知識を身に付けている 　・自然科学系科目を修得する (HC)　実務や研究に活用できる専門知識や専門技術を身に付けている 　・専門科目及び卒業研究を修得する (HD)　主体的な活動を通し、創造的に課題に対応できる能力を身に付けている 　・インキュベーションワークを修得する 準学士課程では，「本科の学習・教育目標　(HA)　豊かな教養と国際性の修得，(HB)　工学に関連する基礎知識の修得，(HC)　専門分野の課題に対応できる能力の修得，(HD)　社会のニーズを捉え，創造的に課題に対応できる能力の修得」の各目標に対応した科目の履修により，１６７単位以上（一般科目７５単位以上，専門科目８２単位以上）を修得した学生に卒業を認定し，準学士（工学）と称することを認めます。ここで，一般科目は（HA），（HB），（HD）の科目，専門科目は(HC)の科目が対応します。 上記単位の修得により，学則に示す本科の教育目的「豊かな教養と国際性を持ち，それぞれの専門分野において実験・実習・演習を重視した教育により工学に関する知識や技術を身に付け，各分野の課題に対応できる人材を育成する。」を実現します。 具体的な人材像として「(HA)　技術者として必要な教養とコミュニケーション力を身に付けている，(HB)　専門分野に活用できる工学に関する基礎知識を身に付けている，(HC)　実務や研究に活用できる専門知識や専門技術を身に付けている，(HD)　主体的な活動を通し，創造的に課題に対応できる能力を身に付けている」を想定しています。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/mokuhyou.html　　）

（概要）
○カリキュラムポリシー
　低学年は一般科目を中心とし，学年進行に伴い徐々に専門科目の比重を増加し，高学年は専門科目中心となる楔形のカリキュラムとする。また，初年次から，全学科に共通する専門的な科目を設ける。なお，評価はシラバスに示す評価割合に従って行い，６０点以上を合格とする。
(HA)　豊かな教養と国際性を修得するために，人文・社会科学系科目を設ける
(HB)　工学に関連する基礎知識を修得するために，自然科学系科目を設ける
(HC)　専門分野の課題に対応できる能力を修得するために，専門科目を設ける
(HD)　社会のニーズを捉え，創造的に課題に対応できる能力を修得するために，総合的な科目を設ける
　本科の教育目的「豊かな教養と国際性を持ち，それぞれの専門分野において実験・実習・演習を重視した教育により工学に関する知識や技術を身に付け，各分野の課題に対応できる人材を育成する。」を実現するため，低学年は一般科目を中心とし，学年進行に伴い徐々に専門科目の比重を増加し，高学年は専門科目中心となる楔形のカリキュラムとする。また，初年次から，全学科に共通する専門的な科目を設ける。
　各学科の教育目的を実現するため，専門科目ではそれぞれの専門分野において実験・実習・演習を重視する。国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに準拠し，専攻科との接続を考慮した体系的なカリキュラムを構成する。
　各科目の到達目標・授業方法・授業計画・評価方法を Web シラバスにより公開し，学修の成果は学則に定める成績評価基準により評価する。

各学科と高専 MCC（モデルコアカリキュラム），学位授与機構専攻の区分との関係

学科名	学科の教育目標	高専 MCC	学位授与機構専攻の区分
機械工学科	ものづくりを通して社会の発展に貢献できる機械技術を有する人材の育成	機械系分野	機械工学
電気情報工学科	絶え間なく進化する科学技術に対応できる電気情報技術を有する人材の育成	電気・電子系分野	電気電子工学
環境都市工学科	豊かで快適な自然環境や社会基盤を整備する技術を有する人材の育成	建設系分野	土木工学
建築学科	安全で快適な生活空間を創造する技術を有する人材の育成	建設系分野	建築学

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/mokuhyou.html　　）

（概要）
○アドミッションポリシー（１年次入学，３年次編入学，４年次編入学で共通）
求める学生像
呉高専は，次のような人を待っています。
(H1) 確かな基礎学力を持ち，ものづくりに興味のある人
(H2) 主体的かつ積極的に行動できる人
(H3) コミュニケーション力のある人
求める学生像の３項目，(H1)，(H2)，(H3)は，それぞれ学力の３要素（１）知識・技能，（２）思考力・判断力・表現力等の能力，（３）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に対応しています。

入学者受け入れの基本方針
第１学年入学
　中学校を卒業した者を対象に，推薦選抜（一般推薦），推薦選抜（特別推薦），学力選抜，帰国生徒特別選抜の４つの方法により，入学者を選抜します。
(1) 推薦選抜（一般推薦）　入学意欲と適性，積極性，コミュニケーション能力などについて，総

合的に評価します。配点は，調査書 270 点，面接 135 点の合計 405 点満点とします。

(2) 推薦選抜（特別推薦）　選抜は，面接によって行います。学業，活動実績と活動内容を確認し，入学意欲，志望学科への適性などについて，総合的に評価します。

(3) 学力選抜　学力検査と調査書の総合判定によって行います。配点は，学力検査 500 点（100 点×５教科），調査書 405 点，合計 905 点満点とします。

(4) 帰国生徒特別選抜　選抜は，学力検査と面接の総合判定によって行います。配点は，学力検査 400 点（100 点×４教科），面接 100 点の合計 500 点満点とします。ただし，日本人学校及び国内の中学校の成績等について，本校所定の調査書が提出された場合の選抜は，学力検査，面接及び調査書の総合判定によって行います。配点は，学力検査 400 点（100 点×4 教科），面接 100 点，調査書 405 点，合計 905 点満点とします。

第３学年編入学（外国人対象）

外国の高等学校を卒業した外国人を対象として，第３学年編入学者の選抜を行います。編入学者の選抜は，出願書類，日本留学試験の成績，TOEFL，TOEIC L&R または IELTS の成績および面接の評価を総合して行います。

第４学年編入学

高等学校を卒業した者を対象として，第４学年編入学者の選抜を行います。選抜は，調査書（150 点），試験（150 点）及び面接の総合判定によって行います。

入学者選抜における評価項目

アドミッションポリシー	(H1) 確かな基礎学力を持ち，ものづくりに興味のある人	(H2) 主体的かつ積極的に行動できる人	(H3) コミュニケーション力のある人
学力の３要素	(1)知識・技能	(2)思考力・判断力・表現力等の能力	(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
推薦選抜（一般推薦）	調査書	面接	面接
推薦選抜（特別推薦）	調査書（中学校３年間 9 教科の学業成績の総計が５段階評価で 114 以上）	面接，推薦書（課外活動等における優れた成績を収めた者）	面接
学力選抜	学力検査（5 科目） 調査書		
帰国生徒特別選抜	学力検査（4 科目）		面接
第３学年編入学（外国人対象）	日本留学試験，英語外部試験	面接	面接
第４学年編入学	試験（筆記又は口述試問）	面接	面接

専攻科（プロジェクトデザイン工学専攻）
教育研究上の目的（公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/mokuhyou.html）
（概要） ○教育目的 　豊かな人間性と国際性を持ち，学修してきた専門分野を深めながら，複合的な素養を身に付け，多様性を涵養し，プロジェクトをデザインできる人材を育成する。 ○学習・教育目標 （SA）　豊かな教養と倫理観により，国際的に行動できる能力の修得 （SB）　工学に関連する応用能力の修得 （SC）　専門分野の課題を解決できる能力の修得 （SD）　社会のニーズを捉え，異分野と協働して課題を解決できる能力の修得
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/mokuhyou.html）
（概要） ○ディプロマポリシー 専攻科課程の修了認定方針 　学習・教育目標に沿って設けた授業科目を履修し，以下の項目にあげる知識・能力を身に付け，６２単位以上を修得するとともに，大学改革支援・学位授与機構の審査に合格し，学士（工学）を取得する。 専攻科課程で養成する人材像 （SA）　技術者として豊かな教養と倫理観，自らの考えを的確に伝えられるコミュニケーション力を身に付けている ・教養科目を修得する （SB）　専門分野に活用できる工学に関する応用能力を身に付けている ・専門基礎科目を修得する （SC）　実務や研究に活用できる専門分野に関する応用能力を身に付けている ・専門科目，応用研究及び特別研究成果を修得するとともに，研究成果を学協会で発表する （SD）　修得した知識や技術を活用し，異分野と協働して課題を解決できる能力を身に付けている ・プロジェクトデザイン系科目及びインターンシップを修得する 　専攻科課程では，「専攻科の学習・教育目標　（SA）　豊かな教養と倫理観により，国際的に行動できる能力の修得，（SB）　工学に関連する応用能力の修得，（SC）　専門分野の課題を解決できる能力の修得，（SD）社会のニーズを捉え，異分野と協働して課題を解決できる能力の修得」の各目標に対応した科目の履修により，６２単位以上を修得するとともに，大学改革支援・学位授与機構の審査に合格した学生に専攻科修了を認めます。 　上記単位の修得により，学則に示す専攻科の教育目的「豊かな人間性と国際性を持ち，学修してきた専門分野を深めながら，複合的な素養を身に付け，多様性を涵養し，プロジェクトをデザインできる人材を育成する。」を実現します。 　具体的な養成する人材像として「(SA)　技術者として豊かな教養と倫理観，自らの考えを的確に伝えられるコミュニケーション力を身に付けている，(SB)　専門分野に活用できる工学に関する応用能力を身に付けている，(SC)　実務や研究に活用できる専門分野に関する応用能力を身に付けている，(SD)　修得した知識や技術を活用し，異分野と協働して課題を解決できる能力を身に付けている」を想定しています。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/mokuhyou.html）

（概要）
○カリキュラムポリシー
本科で修得した主専攻となる専門分野の知識や技術を深めるとともに，他の専門分野の知識や技術を取り入れながら，異分野と協働してプロジェクトをデザインするための能力を身に付けることができるカリキュラムとする。なお，評価はシラバスに示す評価割合に従って行い，６０点以上を合格とする。
(SA)　豊かな教養と倫理観により，国際的に行動できる能力を修得するために，人文・社会科学系の教養科目を設ける
(SB)　工学に関連する応用能力を修得するために，専門基礎科目を設ける
(SC)　専門分野の課題を解決できる能力を修得するために，専門科目を設ける
(SD)　社会のニーズを捉え，異分野と協働して課題を解決できる能力を修得するために，総合的なプロジェクトのデザインを実践する科目を設ける

専攻科の教育目的「本科の教育目的「豊かな教養と国際性を持ち，それぞれの専門分野において実験・実習・演習を重視した教育により工学に関する知識や技術を身に付け，各分野の課題に対応できる人材を育成する。」を実現するため，本科で修得した主専攻となる専門分野の知識や技術を深めるとともに，他の専門分野の知識や技術を取り入れながら，異分野と協働してプロジェクトをデザインするための能力を身に付けることができるカリキュラムとする。
各科目の到達目標・授業方法・授業計画・評価方法を Web シラバスにより公開し，学修の成果は学則に定める成績評価基準により評価する。

各学科と高専 MCC（モデルコアカリキュラム），学位授与機構専攻の区分との関係

専攻名	系	基礎となる学科	高専 MCC	学位授与機構専攻の区分
プロジェクトデザイン工学専攻	機械系	機械工学科	機械系分野	機械工学
	電気情報系	電気情報工学科	電気・電子系分野	電気電子工学
	環境都市系	環境都市工学科	建設系分野	土木工学
	建築系	建築学科	建設系分野	建築学

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/mokuhyou.html）

（概要）
○アドミッションポリシー
求める学生像
呉高専専攻科は，次のような人を待っています。
(S1) 技術者として必要な教養とコミュニケーション力を身に付けている人
(S2) 専門分野に関する知識と技術を持ち，ものづくりの技術を身に付けている人
(S3) 課題を解決するために，主体的かつ積極的に行動できる人
求める人材像の３項目のうち，(S1)と（S2）は学力の 3 要素（１）に，(S3)は学力の 3 要素（２）と（３）に対応しています。

入学者受け入れの基本方針
高等専門学校を卒業した者と対象に，推薦による選抜，学力による選抜及び社会人特別選抜の 3 つの方法により，入学者を選抜します。
(1)推薦による選抜　入学者の選抜は,在学又は出身の高等専門学校長から提出された推薦書,調査書(200 点満点）及び面接（専門科目に関する口頭試問を含む。200 点満点）の結果を総合して行います。
(2) 学力による選抜　入学者の選抜は，学力検査（400 点満点），調査書（200 点満点）及び面接の結果を総合して行います。
(3) 社会人特別選抜　入学者の選抜は，企業等から提出された推薦書，調査書及び面接（専門科目に関する口頭 試問を含む。）の結果を総合して行います。

入学者選抜における評価項目

アドミッション・ポリシー	(S1) 技術者として必要な教養とコミュニケーション力を身に付けている人	(S2) 専門分野に関する知識と技術を持ち，ものづくりの技術を身に付けている人	(S3) 課題を解決するために，主体的かつ積極的に行動できる人
学力の３要素	(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	(1)知識・技能	(2)思考力・判断力・表現力等の能力
推薦による選抜	面接	調査書，面接	面接
学力による選抜	面接	学力検査	面接
社会人特別選抜	面接	調査書	面接

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/sosiki.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	２人	－					２人
人文社会系分野	－	１人	６人	１人	２人	０人	10人
自然科学系分野	－	３人	２人	０人	３人	０人	８人
機械工学分野	－	４人	５人	０人	０人	０人	９人
電気情報工学分野	－	２人	７人	０人	１人	０人	10人
環境都市工学分野	－	６人	４人	０人	０人	０人	10人
建築学分野	－	４人	５人	０人	１人	０人	10人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
０人	33人	33人

各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： 〇researchmap https://researchmap.jp/researchers?q=%E5%91%89%E5%B7%A5%E6%A5%AD%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%B0%82%E9%96%80%E5%AD%A6%E6%A0%A1 〇研究シーズ集 https://www.kure-nct.ac.jp/research/pdf/seeds.pdf

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
機械工学科	40 人	43 人	107.5%	200 人	210 人	105.0%	若干名	0 人
電気情報工学科	40 人	45 人	112.5%	200 人	210 人	105.0%	若干名	0 人
環境都市工学科	40 人	39 人	97.5%	200 人	209 人	104.5%	若干名	0 人
建築学科	40 人	43 人	107.5%	200 人	210 人	105.0%	若干名	2 人
プロジェクトデザイン工学専攻	40 人	30 人	75.0%	80 人	70 人	87.5%	0 人	0 人
合計	200 人	200 人	100.0%	880 人	909 人	103.3%	若干名	2 人

（備考）

b.卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
機械工学科	40 人 (100%)	17 人 (42.5%)	23 人 (57.5%)	0 人 (0%)
電気情報工学科	33 人 (100%)	15 人 (45.5%)	18 人 (54.5%)	0 人 (0%)
環境都市工学科	40 人 (100%)	20 人 (50%)	19 人 (47.5%)	1 人 (2.5%)
建築学科	37 人 (100%)	11 人 (29.7%)	22 人 (59.5%)	4 人 (10.8%)
プロジェクトデザイン工学専攻	46 人 (100%)	15 人 (32.6%)	29 人 (63%)	2 人 (4.4%)
合計	196 人 (100%)	78 人 (39.8%)	111 人 (59.6%)	7 人 (3.6%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
合計	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

１２月に次年度の教科担当教員が確定した後で，教務主事から非常勤教員を含む全教員あてにメールおよび教員会でシラバス作成依頼を行う。シラバスの作成は国立高専機構 Web シラバスシステムを使用し，シラバスの内容は，到達目標，ルーブリック，学科の到達目標項目との関係，教育方法等（概要，授業の進め方と授業内容・方法，注意点），各週の授業計画，成績評価の評価割合である。

１月中旬～下旬にかけて各学科教育主任によるシラバス内容チェックを経て，必要であれば各科目の担当教員にシラバスの修正依頼をする。

１月，２月の教務委員会で進捗状況を確認し，３月の教務委員会でシラバスを確定する。

シラバスの公表時期は，４月１日としている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

各科目のシラバスに沿った成績評価をされていることをチェックするため，成績評価資料のエビデンス保存マニュアルにより，全学的にすべての科目の成績評価資料を保存，学生課教務係で保管している。また，適切に学修成果が評価されているかどうか科目担当教員以外の教員がチェックしている。本科各学科の卒業研究も発表要旨の書式を統一している。

大学の学部４年生の卒業研究に相当する，専攻科プロジェクトデザイン工学専攻特別研究では，特別研究指導資格のある他の教員が論文の評価を行うなど，客観的な評価・基準に基づき判定する体制を整備している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気情報工学科	167 単位	有・無	単位
	環境都市工学科	167 単位	有・無	単位
	建築学科	167 単位	有・無	単位
	プロジェクトデザイン工学専攻	62 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/campusmap.html（キャンパスマップ）

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	全学科・ 専攻共通	234,600 円	84,600 円	円	制服代 80,000 円程度 学生会入会金　500 円 学生会費　6,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 修学支援新制度，日本学生支援機構貸与奨学金，各種団体からの奨学金を募集，推薦している。また，授業料免除については，修学支援新制度と併せて，国立高等専門学校機構の授業料免除を実施してる。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） ５年間の進路指導を，１・２年次（職探し＝サーチＳ、自己分析＝セルフ・アナリシスＳＡ），３年次（計画＝プランＰ），４年次（実行＝アクションＡ），５年次（実現＝リアライズＲ）の“ＳＡＰＡＲ”と名づけて体系的なキャリア教育プランとして実施している。https://www.kure-nct.ac.jp/campuslife/sapar.html
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生の生活及び経済面に対しては，クラス担任が中心となって学生の指導・相談・助言を行う体制になっている。学生主事・主事補を中心に学生指導委員会で指導方針を決定し，全教員が学生の生活面の指導を行っている。学生相談室には相談室員，カウンセラーを配置し，保健室と連携して，学生からの相談に対応する体制になっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.kure-nct.ac.jp/profile/j_koukai.html

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	G134110110035
学校名（○○大学 等）	呉工業高等専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		42人	37人	45人
内訳	第Ⅰ区分	19人	21人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	13人	－	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				46人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号、第４号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	人	0人	0人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	－
３月以上の停学	0人
年間計	－
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	人	0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	－	0人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	－	0人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。